

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人 尚仁会		
事業所名	グループホーム「西まち」 2F梅ユニット		
所在地	札幌市西区西町北8丁目1-25		
自己評価作成日	平成22年8月1日	評価結果市町村受理日	平成22年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

優しさは優しくしているつもりではなく、相手が感じとって初めて「優しさ」という言葉が使えるのだ、「優しさ」を伝えるためには一つ一つの動作に最後まで、その手を指を添えることで優しさは伝わるはず。
人に対してだけでなく物に対しても全ての動作に対して最後まで指を添えることで、落ちついた穏やかな環境の整えが出来る。そのような内容から当ホームでは「優しさは指先から」と指導しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401277&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年9月1日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地下鉄から徒歩3分でバス停も近く、近隣には病院や薬局、スーパー、商店が立ち並び、生活の利便性に恵まれた環境にある。3階鉄筋コンクリート造りの建物で、1階が内科クリニック、2、3階がグループホームとなり、2ユニットの構成となっている。建物内部は広く明るく、利用者の安全と介護者の動きを考慮した造りになっている。運営母体が医療法人で、クリニックの医師は長年同地で地域医療を担っていた経緯があり、地域との信頼関係を構築しており、医療面が充実している。管理者は今までの病院勤務などで得た経験を活かして、職員と共に質の高い優しさの伝わる介護を実践している。職員には研修や資格の取得を奨め、実習生の指導受け入れを行っている。職員の定着率は良い。利用者は合唱や健康体操、外出行事などに参加し、体力保持や生活の楽しみにつなげている。利用者の表情は明るく穏やかである。家族会を設置しており、家族の来訪は多く、家族の事業所に寄せる信頼は厚い。地域住民とは運営推進会議や町内会、事業所主催の行事の参加を通して協力関係を築いている。防災訓練では、町内会役員や地域住民が積極的に参加協力している。終末期の看取りについては、医師、看護師、介護職員が連携し協力し合いながら家族の希望を叶えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に職員全員で唱和し、実践につなげられるよう心に刻んでいる	地域密着型サービスの意義を踏まえ「心からの笑顔、安心できる環境、個性の尊重、地域との共同」を理念として策定、掲示し、申し送り時に全職員で唱和して共有を図りサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事などに積極的に参加している	町内会に加入し行事に参加している。事業所主催の夏祭りには多数の地域住民が参加協力している。併設クリニックを通して、日ごろから住民との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会からの要望で、管理者の講演の場が設けられ、私たちの認知症の人の支援方法が地域の方にも広まった		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一度、運営推進会議を開き、利用者状況、活動内容の報告をしている。また、実際の生活場面を見ていただき、サービス向上に務めている	定期的に運営推進会議を開催し、記録している。会議には、地域包括支援センター職員、家族、地域住民、事業所関係者等が参加し、行事、感染症、災害訓練等について話し合い、会議で討議した内容は、事業所の運営に効果をあげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らないことや困難な時には連絡をとり情報源としている又協力関係を保てるよう努力している	行政の担当者とは常に連絡を取り、情報交換している。管理者は区の管理者会議の代表を努めており、区や市の管理者会議を通して連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないように、利用者の状態に応じて、見守りを行ったり、家族に協力していただいたりしている	身体拘束についての研修やマニュアルの整備を行い、身体拘束の無いケアを実施している。玄関は日中施錠せず、利用者の動きを見守りながら安全に配慮し、自由な雰囲気大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待がないよう周知徹底している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいるため制度のパンフレットを活用し職員には説明し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけ、説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3カ月毎に開催し家族の意見を聞ける場を設けている	家族会を3ヶ月毎に開催し、意見や希望を聞いている。また、便りを発行し、利用者の暮らしぶりを報告し、運営推進会議での家族意見は運営に反映させている。重要事項に外部苦情申し立て機関窓口を案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の学集会で、意見や提案などを聞き話し合っている	代表者や管理者は、職員と共に月2回学習会を行う中で職員の意見を聞く機会を設けており、職員の提案や意見は運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や資格手当・有休活用等就業環境は整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人ひとりの状況に応じて研修への参加を促したり、資格取得のためのサポートをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区単位での勉強会やグループホーム利用者を交えての食事会等に参加し、交流している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来れば入居前に利用者本人にホームへ来ていただき、顔なじみの関係を築きながら話を聞き、信頼関係構築を目指している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居予約の時から、家族が困っている事、要望等に耳を傾け、安心していただけるよう務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人との面会を行い家族も含め対応を考えている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況に応じて、共に調理や掃除等行っていたり、時には遊んだりしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪時は、家族と過ごす時間を大切にいただいている。近況報告、相談等も行い、共に本人を支えられるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の要望があれば、馴染みの人や場所に行けるよう支援する	生活歴を把握し、馴染みの人との交流が維持できるように手紙や電話連絡等の支援をし、要望があれば家族の協力を得て帰省や墓参りが出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況に応じて、体操や合唱、その他レクレーションに誘い、利用者同士関係を深め孤立しないよう配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最期までホームで過ごす方が殆ど。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉に耳を傾けるよう努めている。また、表現出来ない方は、家族に相談したりして本人の意向に近いものを探っている	日ごろの関わりの中から言葉や動作で希望や意向について把握するように努め、把握が困難な場合は家族や関係者から情報を得て、本人の意向に添うように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴を尋ね、アセスメントシートを活用し、把握している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者の様子をその日の担当スタッフが記録に残し、把握している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望を聞き、担当スタッフと話し合い、現状に即した介護計画となるよう努めている	介護計画は担当者職員、関係者が日ごろの関わりの中から得た情報を基に本人、家族の意見を取り入れ、カンファレンスで協議を重ね作成している。定期的なモニタリングの他、変化が生じた時は随時見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には、見出しをつけ、振り返った時に見やすく工夫した。また、一カ月の様子を振り返る月のまとめを記録し、介護計画の見直し時かつようしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ・家族が共に協力し合い本人の意思を尊重した対応をしている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護での依頼はないが演芸やお祭り等には活用し協働している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	建物一階がクリニックのため、かかりつけ医がそばにいる。何かあればすぐに診てもらえる環境で、利用者、家族ともに安心していただいている	1階の法人の内科クリニックで月2回定期診療があり、健康管理を行っている。緊急時を含めて、いつでも受診可能な環境にあり、利用者が希望する他科の受診についても柔軟に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師で殆ど常駐しているので、何かあれば直ちに報告・相談し、必要があればすぐにかかりつけ医に診てもらえる			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書提出し退院時にはカンファレンス参加し病院関係者との意見交換をしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族会等機会ある事に説明を行い医師・看護師・スタッフの連携がとれるようになっている	重度化した場合の対応に関する指針は、早い段階で家族に説明し、文書で確認している。看取りについては家族、医師、看護師、職員が十分に話し合い方針を共有し、家族と看取り介護についての同意書を交わし、終末期の看取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、応急手当や初期対応について勉強会を行ったり、研修に参加している			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練は、町内会や一階クリニックの職員とともに、夜勤帯を想定しての避難についても訓練を行っている	年2回消防署員立会いのもと消防車も出動し、夜間も想定して避難訓練を実施している。防火壁、緊急通報装置等があり、今年スプリンクラーの設置を予定している。地域住民は避難訓練に参加し、協力している。	火災のみならず災害時の対応を考慮し、避難場所の確保の検討と地域住民との連携をさらに進めるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけだけでなく「優しさは指先から」をモットーに、対応を心掛けている	職員は言葉や細かな動作にも配慮し、優しさが伝わるように対応している。個人情報記載の書類等は適切に管理し、プライバシー保護に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	我慢強く待ち、利用者本人の言う事に耳を傾けるようにしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の嫌がる事は無理強いせず、希望に合わせた支援を心掛けている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに美容師さんに来ていただき、カットやパーマなど好みの髪型にしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むきや食器拭き等、役割として行ってくれる利用者がいる	利用者の好みを献立に取り入れ、希望や能力に応じて下ごしらえや後片付けを行っている。咀嚼、嚥下機能に配慮して食事形態を工夫し、職員と共に食卓を囲む食事は、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導を受けた調理担当の職員がバランスのとれたメニューを考えている。 一日の水分量はチェックし、把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後歯磨きの声かけを行っている。必要な方には、訪問歯科医に診ていただき、介助法など指導をうけている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜はおむつでも、日中はトイレ誘導など、利用者の状況に合わせた対応を心掛けている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。個々の状態に応じてさりげなく誘導する等、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おからクッキーやヨーグルトなどをおやつ時取っていたり、毎日体操に参加していただき、体を動かして便秘解消できるよう努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回、大まかな予定は職員が立てているが、その時の状況に応じて臨機応変に対応している	週2回以上の入浴を予定しているが、一人ひとりの希望やタイミングに応じて支援している。浴室は常に清潔を保ち、ゆったりと入浴出来るよう言葉かけにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく体を動かしていただき、夜はぐっすり眠れるよう一日の生活リズムを整えるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、看護師から説明を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べる事が楽しみな利用者が多いので、月一回月末にお楽しみ食と題して、利用者の要望を叶えている。また、時には外食へ出かけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状では、その日の職員の人数体制によって希望に添えない時もあるが、家族に協力していただいている。普段行けないような場所についても、家族の協力を得て、外出行事として車で出かけている	事業所では季節に合わせて初詣、花見、苺狩り、紅葉狩り等、戸外行事を実施している。日常的には町内会行事への参加や外食、大型店への買い物など、希望に沿って外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて、お金を所持したり使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由にしてもらっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に音に関しては細心の注意を払い、不快を招かないよう気を付けている	共有空間は広く明るく清潔で、各所に手摺を設置し、安全に配慮している。壁には季節感のある作品や絵画を飾り、観葉植物を置いている。温度、湿度、採光も良好で、職員は音に細心の注意を払い、静かで穏やかな環境の中で居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓等好きなところで過ごしていただいている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みのもの、好みのものを持ちこんでもらうよう説明し、安心できる環境になるよう配慮している	居室には使い慣れた家具や生活用品、仏壇等を持ち込んでいる。家族の写真や趣味の物を飾り、安心して過ごせるよう工夫している。室内はほど良く整頓し、掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要個所に手すりが設置してある。 利用者の居室は名前と顔写真、トイレはわかりやすく日本語で表示した		